

よりよく生きる

1年生の道徳授業の紹介 愛ある愛媛の道徳「消えない言葉」

1年生の3学期の道徳授業の内容を紹介させていただきます。

資料のあらすじ

歩美は、友達我真希から自分の学校のホームページの裏サイトがあることを教えてもらう。家に帰り、その掲示板を見る歩美。そこには、学校生活の様子や嫌いな先生の悪口を書いている内容があった。歩美は、真希から「先生の悪口は私が書いた」ということを知らされる。内容のおもしろさに興奮し、他の生徒にも裏サイトを紹介する歩美。

数日後、真希は担任に呼ばれて掲示板の内容（先生の悪口）についての指導を受けた。歩美が告げ口をしたと勘違いした真希は、その後、歩美との距離を置く。そんな中、裏サイトに真希が歩美の悪口を書き込んでいるのを見る。歩美は、自分も真希の悪口を裏サイトに打ちかけようとして手を止める。「私も先生の悪口を読んで笑っていた。悪口を書き込むことは卑怯だし、いったん書き込んだ言葉は消えない・・・」

次の日の朝、登校後に歩美は真希に声を掛け、自分の気持ちを伝えようとする。

歩美は、自分に対する書き込みを見てどう思っただろうか。

- ・悔しい・・・裏切られたという気持ち、私は悪いことはしていない。
- ・悲しい・・・私は何もしていないのに誤解されている。自分の悪口を書かれている。

歩美は、どんな思いで書き込むのをやめたのだろうか。

- ・やっていることが間違っていると思い直した。
- ・真希と同じレベルにはなりたくない。 ・悪口を止められる側になりたい。
- ・このままでは負の連鎖になる。同じことの繰り返しはしたくない。
- ・これ以上、二人の関係を悪化させたくない。 ・読んだ人が嫌な気持ちになる。



歩美は、どんな思いから真希に自分の気持ちを伝えようと思ったのか。

- ・掲示板に人の悪口を書き込むのはよくないということを、真希に伝えようとした。
- ・自分も同じように書き込むのではなく、書き込みを止める側になろうと思った。
- ・相手が傷つくことは、自分にはしないようにしようと考えを改めた。
- ・自分も先生の悪口を見て笑っていたので、そんな行動を恥ずかしいと思った。
- ・二人の関係をこのままにするのではなく、直接話をして解決したいと考えた。

今回の資料は、携帯電話の普及によって陥りやすい事柄を題材とした内容でした。この資料にもあったような裏サイトへの掲示板による嫌がらせやいじめ問題は、中学校でも多発しており、学校教育でも大きな課題となっています。学校の裏サイト掲示板に書き込みを行う真希と、今まで興味本位でしか見ていなかった掲示板に、自分への中傷の書き込みを見つけ、傷付く歩美を通して、善悪の判断をして望ましい行動を取ることや、自らの行動や判断に責任を持つことを、考えることができた授業になりました。